

特集

熱き^{おんな}女性の闘い！ 然れど美しく！

第5回レディースエレガントスキー大会観戦記

広報部

最近の女性達のアウトドアライフスタイルは、そのファッション性や装備の機能が話題になり、女性の登山者を「山ガール」、釣り愛好家を「釣りガール」、ランニングする人を「美ジョガー」などと呼び、女性そのものの呼び名を年齢に関係なく「女子」と称し、新しい流行語となっている。そんな「女子」たちが集まっているであろう「第5回レディースエレガントスキー大会」を旭川市郊外にあるサンプレゼントパークスキー場に取材に伺った。

女性だけの大会ということで、飛び入り参加するわけにも行かず、熱き女子の闘いをギャラリーと一緒に観戦。感じたままを報告したい。

2月6日の旭川地方は、朝からの冷え込みが厳しく、午前8時の気温がマイナス13度、晴れ、無風という絶好のスキー日和となった。

遠くに大雪山、十勝岳連山を望める同スキー場は、市民の冬の憩いの場としても親しまれ、大変賑わっていた。この日集まった参加者は、全道各地から約70名。遠くは稚内、釧路、登別などからエレガントな女子が集い、ゲレンデには一足早く春の装いが……



選手宣誓に感嘆！

エントリーは年齢別にA組（中1～高3）からG組（66歳以上）までの7クラス。

思い思いのスキーウエアに身を包み、チョット緊張した面持ちの選手たちが整列している。

この大会は「女性による女性のための大会」と言う名目通り、主な競技役員からデモ、審判員に至るまで、全て女性陣で構成されている。

8時40分から始まった開会式では、競技委員長の小原康子氏（SAJ技術員）の開会宣言でスタート。続いて黒一点？である道連教育本部長吉田英一大会委員長から「今年は日本にスキーが伝わって100年を迎える記念すべき年です。参加選手の皆さんはエレガントに美しく、一杯思い切り滑って楽しんでください。」と激励の挨拶。来賓として旭川スキー連盟副会長の犬野末松氏から歓迎のことばが述べられました。



挨拶する吉田大会委員長

選手宣誓は、地元旭川の鈴木千紘さん（C組）が女性ならではの細やかな、気配りいっぱいの



すばらしい選手宣誓！鈴木選手

すばらしい宣誓を披露。

今大会に出場するために、仕事や家事、育児の切り盛りの苦勞と、スキーにかける情熱をユーモアを交えて宣誓してくれたのには、私も感心して聞き入ってしまった一人。この宣誓には、選手、役員一同はもとより、応援のギャラリーからも大きな拍手が沸き、笑顔の中にも凜とした緊張感が会場を包んだ。これを受けた吉田大会委員長からは、異例とも言える称賛の言葉が送られ、開会式は終了。その場で直ちに選手会が開かれ、競技説明が行われた。

一般的な技術選等とは異なり、本大会の審判方法の特徴は、滑る技術点（100点満点）のみならず、いかに女性らしく美しく、エレガントに滑るかという芸術点（10点満点）制度（5審3採）があり、滑りが上手なだけでは入賞できない難しさも・・・しかもこの大会には団体戦があり、3人一組の合計点で優勝を争うチーム部門もある。（第3回大会から実施）



カラフルなウエアーが集う選手会風景

おんなの闘いスタート

9時、インスペクション開始、いよいよ熱き闘いの火蓋が切って落とされた。



ちょっとドキ、ドキの瞬間（A組）

スタートはA組から順次G組まで。スタートエリアに集まる選手たちにも、緊張感が漂う。

前年度入賞している選手には熱い視線が注がれ、スタート時には仲間から「イケー！、ガンバアー！」の気合がかけられ、ゴールから聞こえてくるジャッジコールに高得点が出ると、スタートを控えた選手たちにもプレッシャーがかかっている様子が伝わってくる。

会場には、DJ風のアナウンスがスタートする選手を一人一人紹介し、大会の雰囲気盛り上げてくれる。競技は大回り・小回り・総合滑降の順で進行。ゴール付近の応援団からは、ラッパなどの鳴り物が賑やかに吹かれ、芸術点に満点が出るたびにギャラリーからは歓声が上がる。



スタートエリアは緊張感がいっぱい



技術点には90点前後の高得点も



ゴールエリアではラッパが賑やかに



美しくエレガントな滑りには10点満点が



年齢不詳、フィニッシュも豪快です

12時過ぎ競技は終了したが、昼食を挟んで13時40分からは、参加者を対象とした無料講習会が開かれ、SAJ技術員、SAHデモが講師を務め、大盛況であった。友人と参加した最年少の12歳の選手数名は「うちのおばあちゃんと同じくらいの方が、こんなに滑るのはすごい！」と尊敬の眼差し。一方、年長組の選手たちは、「孫のような子供達と同じフィールドで一緒に滑るのは楽しいし、うれしいこと！」と笑顔で話してくれる姿は、年齢よりも若々しく見えるのは、雪のハレーションの性か？

滑り終えた選手達から聞こえてきたのは、「勝負もさることながら、ゼッケンを付けて滑る緊張感がたまらない！」「スタート位置に立った時のドキ、ドキ感が最高！」と笑顔で話してくれた。特に、女性ならではの普段の仕事である家事、育児などをこなしながらこの大会に合わせてコンディションを整えることは、非常に難

しいことである。しかし、スキーにかける情熱がそんな困難をも乗り越えさせるのか、輝く笑顔が全てを物語っているようで、「女子」のパワフルな力強さを感じた一日であった。

成績やかに

閉会式では、吉田大会委員長から「皆さん全力を出し切ってスッキリ終わったでしょうか？女性には強いこだわりがあるそうで、顔で笑って心で……」とユーモアたっぷりに挨拶。

続いて小原競技委員長から「自分の滑りを表現することの難しさや、この大会のすばらしさを沢山のの人に伝えて欲しい」と参加者に激励と感謝の言葉が述べられ、諸澤法子技術代表から、各競技種目に対する講評があり、成績発表へ。

各組3位までの入賞者が表彰され、会場となったレストラン内は、大きな歓声と拍手に包まれた。サプライズ表彰には、今回の最高齢選



ユーモアたっぷりに挨拶する吉田委員長



小原競技委員長



諸澤技術代表



破顔一笑、児玉選手

手であるG組の児玉正枝さんが個人優勝（3連覇）とのダブル受賞に、ひときは大きな拍手が送られました。

フィナーレは、大会協賛各社提供によるスキーグッズや小物などが当たるお楽しみ抽選会で盛り上がり、第5回大会は

成功裡に無事終了した。

今大会運営の要である総務主任を担当した中嶋弘恵さん（SAJ技術員）にお話を伺った。

一番苦勞し時間を費やしたのは、選手の募集と大会のPRであったと言う。参加選手の募集に当たっては、技術員研修会で各地区連へのPRはもとより、チラシ等も配布、地元の新聞や市の広報等にも掲載するなど知恵を絞った。

結果、過去最大の約70名の参加者が集まり、「ホッ」としましたと笑顔に。

大会当日は、受付から開閉会式の段取り、司会進行、食事の手配から雑用まで、超多忙な一日を終えたであろう翌日に、聞き漏らした分を取材させていただいた。



大会を支えた女性役員の方々

新しい大会を育てることは、大変な時間と労力が必要なことは、承知の上とはいえ「女子の力」で年々盛会になってきたことは、大変喜ばしいことであり、今後の更なる発展を祈念したい。この日は、終日大雪山系がクッキリと姿を見せ、熱く滑る選手たちにエールを送っているように見えたのは、取材者の思い過ぎか・・・

本大会が回を重ねるごとに参加者が増え、スキーの底辺が広がっていくことを願いつつ旭川を後にした。大会関係者の皆さん、参加選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。

シーハイル！！

第5回レディースエレガントスキー大会成績

組	順位	氏 名	資 格	地 区
A組 (中1～高3)	1	大 澤 那 奈	1	旭 川
	2	橋 口 玲	1	旭 川
	3	白 石 桃 佳	1	旭 川
B組 (19歳～25歳)	1	馬 場 麻 衣	1	北 広 島
	2	木 下 茶 紀 子	準 指	札 手 稲
	3	櫻 井 由 佳 里	準 指	旭 川
C組 (26歳～35歳)	1	境 知 美	指・ク	札 手 稲
	2	奴 留 湯 瑞 穂	指	ニ セ コ
	3	三 浦 寛 子	指	旭 川
D組 (36歳～45歳)	1	高 橋 美 香	テ	札 幌
	2	吉 田 恵	指	美 唄
	3	加 賀 真 由 美	指	留 萌
E組 (45歳～55歳)	1	松 田 恵 子	1	名 寄
	2	山 中 洋 子	指	十 勝
	3	岩 崎 博 子	1	新 十 津 川
F組 (56歳～65歳)	1	浅 井 恵 子	指	旭 川
	2	満 保 博 子	1	旭 川
	3	橘 井 美 智 子	準	稚 内
G組 (66歳～)	1	児 玉 正 枝	指	旭 川
	2	松 原 君 子	準	旭 川

☆ チームの部

順 位	チ ー ム の 部
1	木下茶紀子 (札手稲) ・ 境知美 (札手稲) ・ 高橋美香 (札幌)
2	奴留湯瑞穂 (ニセコ) ・ 森島麻衣理 (江別) ・ 鈴木優子 (札幌北)
3	斉藤あずさ (旭川) ・ 櫻井由佳里 (旭川) ・ 三浦寛子 (旭川)